

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：桜田 昌之

事業名 一般道道富良野上川線 <small style="font-size: 0.8em;">ふらの かみかわ</small>	事業区分 北海道	事業主体 国土交通省 北海道開発局			
起終点 自：北海道上川郡美瑛町字宇莫別 <small style="font-size: 0.8em;">ほつかいどうかみかわ びえい うまべつ</small> 至：北海道上川郡東川町道有林 <small style="font-size: 0.8em;">ほつかいどうかみかわ ひがしかわ</small>	延長 13.2 km				
事業概要 富良野上川線は富良野市と上川町を結ぶ延長約87kmの一般道道であり、このうち上富良野町字上富良野から旭川市東旭川町瑞穂間は開発道路に指定され延長約38kmの事業が進められていました。その後、平成16年の事業再評価により事業規模が見直され、継続区間とされた当該再評価区間を除く開発道路指定区間が全線指定解除されました。当該道路は、交通不能区間の解消による新たな交通ネットワークの構築、物流効率化の支援、観光アクセスの向上等に寄与する道路です。					
S61年度事業化 H-年度都市計画決定 S61年度用地着手 S61年度工事着手					
全体事業費 約20億円 事業進捗率 4.4% 供用済延長 — km					
計画交通量 100～600台/日					
費用対効果分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> B/C (事業全体) 1.0 <small style="font-size: 0.8em;">(残事業) 1.9</small> </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 総費用 (残事業)/(事業全体) 12/22億円 (事業費：8.9/19億円) (維持管理費：2.7/2.7億円) </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 総便益 (残事業)/(事業全体) 22/22億円 (走行時間短縮便益：19/19億円) (走行経費減少便益：2.8/2.8億円) (交通事故減少便益：0.59/0.59億円) </td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 1.0 <small style="font-size: 0.8em;">(残事業) 1.9</small>	総費用 (残事業)/(事業全体) 12/22億円 (事業費：8.9/19億円) (維持管理費：2.7/2.7億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 22/22億円 (走行時間短縮便益：19/19億円) (走行経費減少便益：2.8/2.8億円) (交通事故減少便益：0.59/0.59億円)	基準年 平成20年
B/C (事業全体) 1.0 <small style="font-size: 0.8em;">(残事業) 1.9</small>	総費用 (残事業)/(事業全体) 12/22億円 (事業費：8.9/19億円) (維持管理費：2.7/2.7億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 22/22億円 (走行時間短縮便益：19/19億円) (走行経費減少便益：2.8/2.8億円) (交通事故減少便益：0.59/0.59億円)			
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C= 2.1 (交通量 +10%) B/C= 1.7 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C= 1.8 (事業費 +10%) B/C= 2.1 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C= 1.9 (事業期間 0年) B/C= 1.9 (事業期間 0年)					
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における交通不能区間を解消する） ・物流効率化の支援（農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる） ・個性ある地域の形成（主要な観光地へのアクセス向上が期待される）					
他3項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 旭川市をはじめとする2市5町の首長等で構成される開発道路白川美唄線整備促進期成会等より早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成2年～平成18年 北海道立旭川21世紀の森拡張整備、平成17年5月「大雪・富良野ルート」がシニックバイウェイ北海道のルートに指定、平成19年3月「忠別ダム完成」					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成16年度に事業規模が見直され、用地進捗率95%、事業進捗率4.4%となっている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き事業が順調に進んだ場合、平成20年代前半の事業完了を予定している。					
施設の構造や工法の変更等 道路の縦断・平面線形の見直や気泡混合軽量盛土工法等の採用等によりコストの縮減を図っている。					
対応方針 事業継続					
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。